

## つるさんの体験記

パニック 1923年9月1日

矢島勝昭

●関東大震災は私が28才のときでございました。当時雑司ヶ谷4丁目、現在南池袋2丁目の東通りで駄菓子屋をしておりましたが、その頃の東通りと云えば商店もほとんど見られず、私の駄菓子屋も万屋(よろずや)なんて云われるくらい種々なものを商っておりました。

●大正12年9月1日の昼、赤ん坊が寝た間に洗濯をと思って、エプロンを取りに立ったとたん、ゴウゴウ得体の知れない何とも云い様のない地鳴りが起こって、それがあっと云う間に大地震となって家をゆすったのです。赤ん坊と足に絡みつく2才の息子とをお腹の下へ抱え込んで、四つん這いになって夢中で庇いました。3尺ほどのコードで吊った電灯が大きく揺れて天井へぶつかり、えらい音を立ておりました。何時その電灯が落ちてくるかとはらはらしておりましたが、店の物や窓ガラスも跳ねたり互いにぶつかり合ってガラガラ鳴る、それはそれは恐ろしい音でした。

●ちょっとの間静かになったので、赤ん坊を抱いて息子と裸足で外へ出ると、大家さんの門の所に5、6軒の家族が寄りそっておどおどしておりました。速や鐘(半鐘)が鳴りだしました。高い建物が無いので、あっちの方こっちの方で火事になるのが見えるので、どうしょう、どうしようと戸惑うばかりで、半鐘の音や火の手を見て、子供たちがふるえる声で「恐いよお恐いよお」と云って泣きだす始末でした。

●大家さんの庭にひと抱えほどの大木桐の木がありまして、その晩はその木の下で野宿することにして、余震の合間に家へ飛び込んでは、ゴザを持ったり、蒲団など種々運び出しました。外では、今日何時何分には大きな余震があるとか大声で怒鳴る声が聞こえてきます。野宿は6日間続き生きたそらはありませんでした。7日目に雨が降り、やっと家へ入って寝ることにしました。しかし余震はどんどん続いているのでございます。

●食べものところでございますが、家では色々の食べ物を売っておりましたので、多少貯えはあったのですが、お煎餅でも何でも背負うほど買って

ゆく人がいるので、そんなに買っていったいどうしますって聞いたら、煎餅を食べて水を飲んで命を保つんだと云っていました。食べ物もだんだんと無くなりまして、買い出しに行くのですが、一食に足るものを持つてくるのは容易なことではありません。玄米をおかゆにして食べたりもしていました。暑さも厳しく、今で言えばちょうどベトナム戦争の捕虜みたいにみんな紐で繋がって、裸、裸足のまゝ表通りを駅(池袋)の方へ歩いて行きます。

●乗物もあるわけではなく、毎日毎日足で歩いて行ける所まで行って食べるものを探して歩いたのです。主人は電灯会社に勤めていたため、夜も昼も何日たっても復興の仕事で帰ってこないので、子供と3人での野宿など寂しい思いをいたしました。家の回りは一面畠で、晩方になると蚊がいっぱい群らがるので、蚊取り線香を点けると翌朝筈ではくほど落ちていて、蚊取り線香はえらく有り難いことでした。

●毎晩星明かりが頼りでございますから、ローソクを手に入れるのが大変でございます。何日何時どこぞこの乾物屋さんで売るとかいう噂に耳をそばだていました。そのローソクも何日ももたせなければならぬと思うと、節約のため暗がり同様の暮らしをしておりました。

●それに不穏分子が六郷まで攻めてきたとか、暴動が始まったなどと、恐ろしい噂が流れ、そのためか男の人は晩になると真暗闇な通りの向こうとこっちに綱を張って検問のようなことを始め、怪しげな者はやっつけろ叩き殺してしまえとか、怒号と悲鳴で毎晩それは恐ろしいことでした。17、8日過ぎてやっと電気が点いて、よかったなあとひと安心したのでございます。まだまだ云うに云われない様々なことがございましたが、はっきり覚えているのはこのくらいでございます。

●(注:東通りに商店が増えたのは、震災後移住者が急増、家屋も増えたことによります。東通り繁榮会という会は震災2年後に生まれました。)中島つるさんも1988年、92才で亡くなりました。

## 雑司が谷の本紹介

●二十世紀の情景 池袋・雑司が谷  
●雑司が谷村 むかしばなし

●豊島の散歩道  
●豊島の坂

お問い合わせは、豊島区街づくり公社まで (☎ 3981-4734)

## まちづくりニュース

57 2002・3

## ●企画・発行

雑司が谷地区まちづくり協議会  
池袋南地区まちづくりの会  
財団法人 豊島区街づくり公社  
☎ 直通3981-4734／丸山・北島・武田・芝山  
豊島区都市整備部まちづくり推進課  
☎ 直通3981-2611／田中・橋本  
森・西口

## ●編集協力

株式会社 エコライン  
☎ 5706-6031／小野  
豊島区広報印刷物

ぞうしがや

を続けています。

矢島さんの提案を受けたまちづくり協議会では、緑のこみちの会と協力して、手作り案内板を設置することにしたのです。材料は工務店を営んでいた伊藤博さんが日光から取り寄せたヒノキとケヤキを提供し、それを澤渡盛康さんが高札の形に加工し、宮島清吾さんが筆で文章を書きました。

案内板は地元の人々の手作りとは思えない立派なもので、墓地の北側、東側、南側の道沿いに計3基設置されました。万年堀を取って生垣になり、落ち着いた潤いのある景観となつた墓地の周囲が、さらに趣きのある風景となりました。



# 雑司が谷墓地を墓地公園に.....要望書と請願書を提出

雑司が谷地区まちづくり協議会では、雑司が谷墓地を将来的には墓地公園として整備していくべきと考えています。そこで、空き墓地を活用し、靈園内の墓地を移動することによって空地を生み出すように、都知事に対して要望書を、都議会に対しては請願書を提出しました。

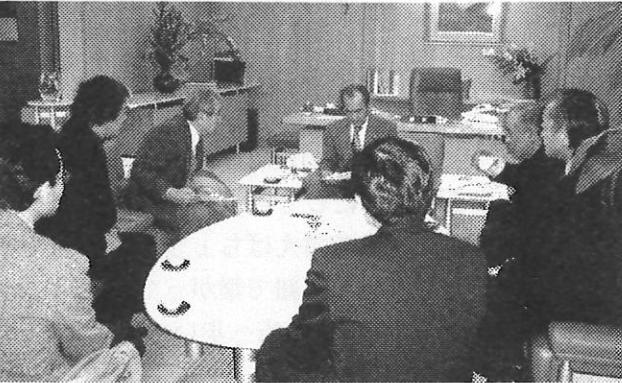
雑司が谷墓地は昭和37年以降新たな貸し出しは行われていません。そのおかげで、この40年の間に少しずつ空き墓地が増えています。しかし、空き墓地はあちこちに点在しているため、まとまった空地にはならず、公園化もそのままとなっています。このままで

は公園になるには100~200年くらいかかるかもしれません。

協議会では、墓地内の特定の場所については、新たに墓石を設置する場合に他の空き墓地に移動してもらうなどして、まとまった空地を生み出し、そこを緑地にするなどして公園化への弾みをつけてもらいたいと考えました。

要望書は2月14日に、協議会の代表から東京都公園緑地部靈園課長に手渡されました。都からは、現在の都営墓地の状況が説明され、来年度、墓地をどうするかの検討会を開催するという回答がありました。今回の要望が、都営墓地のあり方の検討に生かされ、墓

地の公園化が一刻も早く実現することが期待されます。



都議会議長との懇談の様子（2月6日請願書提出）

## 祝三周年 ガーデニング講習会

- 緑の会みのりの会では、次の日程でガーデニング講習会を開催します。どなたでも参加できますので、お誘い合わせのうえご参加ください。
- 日時：平成14年3月9日（土）10:00～12:00
- 場所：かきのみ広場（雑司が谷児童館隣）
- 講師：斎藤逸郎（豊島区街づくり公社）
- お問い合わせ：財団法人 豊島区街づくり公社 街づくり第2係 ☎ 3981-4734

池袋南地区まちづくりの会では、昨年から取り組んできた「池袋南地区まちづくり計画」を、8月30日に、豊島区長に提言しました。

区長提言には、まちづくりの会から正副会長4名が、豊島区からは高野区長、中原助役をはじめ、関係部署の部課長が出席しました。

高野区長からは、「大変にきめの細かい計画となっている」と評価をいただきました。ただ、区の財政が厳しいありますが「できる範囲で取り組んでいきたい」との言葉を頂戴しました。



### まちづくり井戸のシンボルマーク

まちづくりの会では、これから地区内に整備されるまちづくり井戸を、判りやすく、皆さんに親しんでいただけるものとするためにシンボルマークをつくりました。このシンボルマークは、まちづくりの会の岡本隆夫さんがデザインしたもので、地区的シンボルとしてミニマムをデザインしています。これを鏡物のレリーフにして、各井戸に飾ります。



## てはじめてまちづくり井戸の整備

### 今年度から整備

池袋南地区のまちづくりは、今年度からスタートします。豊島区では区長提言を受けて今年度行うことができる事業について、まちづくりの会と協議をおこないました。その結果、今年度はまちづくり井戸の整備を行うことにしました。

### 防災井戸などを使いやすく

まちづくり井戸の整備とは、現在区に指定されている防災井戸などを、所有者はもちろん廻りの方々も、もっと使いやすく整備する事業です。

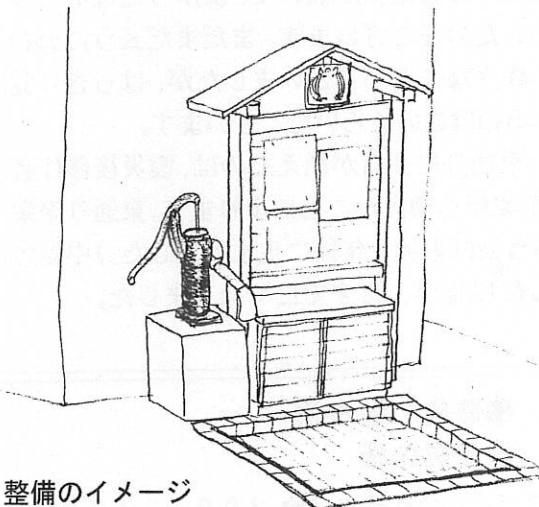
池袋南地区では貯水槽を設置しようとしても、なかなかその用地が見つかりません。そこでまちづくりの会が注目したのが防災井戸です。地区にはたくさんの井戸がまだ現役として残されており、その一部は防災井戸に指定されています。これらの井戸を、普段はもちろん災害時にも、飲料水や防火用水として活用できるようにするのが、この事業の目的です。

### 和風の井戸

今年度整備されるのは、南池袋二丁目40番地の井戸です。雑司が谷地区の井戸の特徴は、路地の中の共同井戸だったものが多いことです。井戸は私道に設置され、それを皆さんで共同で使っていました。

この井戸も、共同井戸として親しまれてきたもので、昔はお祭りの時に子供御輿がこの井戸で一休みして、井戸で冷やしたスイカなどが振舞われたそうです。井戸が生活に密着していた時代の話です。

今でもこの井戸は勢いよく水が出ています。ただ残念ながら、昔ほどは生活用水としては使われなくなってしまいました。それがまちづくり井戸として再び活躍します。今回の整備では、和風の掲示板を設置します。掲示板の中にはバケツを収納して、いざという時にバケツリレーができるようにします。



整備のイメージ

### 道路の点検

池袋南地区まちづくりの会では、地区内の主な道路の点検を行い、問題となるところを捜しました。その結果、地区内には道路を狭めている電柱がたくさんあることが判りました。

その中でも、特に整備が必要と思われる東京音大の南側の道と、東通りから大鳥神社側に抜ける道について、道路整備の要望書を提出することにしました。



音大南側の道.....電柱が道路を狭くしています

### 要望書の提出

協議会から要望書を出したのは、東京電力、NTT、豊島区です。各機関からは、東京音大南側の道については、東京音大の協力が得られれば、整備工事を行うという返事をいただきました。それを受けたまちづくりの会では、東京音大への協力の要請を行い、狭い道路の整備と電柱の移設を行なうように調整しています。